

のら
【言論】

運動の現場から
法保護秘密特定
運現場と

表現の自由よりも特定秘密が優先される代償

鈴木 比佐雄



シラウドからの手紙

父と母が生まれた福島県の海辺に
いまも荒波は押し寄せているだろう
波は少年の私を海底の砂に巻き込み
塩水を吞ませ浜まで打ち上げていった

波はいま原発の温排水を冷まし続けているのか
人を狂気に馴らすものは何がさうかだろうか
検査データを改ざんした日
その人は胸に痛みを覚えたはずだ
その人は嘘のために胸が張り裂けそうになつて
シラウドのように熱疲労で
眠れなくなったかも知れない

二〇〇〇年七月

その人はシラウド（炉心隔壁）のひび割れが
もともと広がり張り裂けるのを恐怖した
東京電力が十年にわたつて
ひび割れを改ざんしていたことを内部告発した

二年後の二〇〇二年八月 告発は事実と認められた

私はその人の胸の格闘を聞いてみたい
その良心的で英雄的な告発をたたえたい
そのような告発の風土が育たなければ

東北がチルドフイリのように破壊される日が必ず来る

福島第原発 六基

福島第一原発 四基

新潟柏崎刈羽原発 三基

十三基の中のひび割れた未修理の五基を

原子力・安全保安院と東京電力は、まだ運転を続けている
残り八基もどう考えてもあやしい

国家と電力会社は決して真実を語らない

組織は技術力のひび割れを隠し続ける

福島と新潟の海辺の民に

シラウドからの手紙は今度、届くのだろうか

次の手紙ではシラウドのひび割れが

老朽化した原発全体のひび割れになつて、ことを告げるか

子供のころ遊んだ福島県の海辺には、まだ原発はなかった
あと何千年たつたら、その海辺に戻れるのだろうか
未来の海辺には、脱原発の記念碑にその人の名が刻まれ
その周りで子供たちが波とたわむれているだろうか

私は2002年暮れに、この詩「シラウド
ドからの手紙」を私が主宰する詩誌「コール
サック」（石炭袋）44号に書き、翌年に刊行し
た詩集『日の跡』にも収録した。これ以前に
も10数篇の脱原発や反原発の詩篇を書いてい

たが、当時は反原発を書いていた詩人達から
さえも反響はなかった。原発と原発が同じも
のである認識を突き詰めることなく、核の平
和利用という長年の宣伝が刷り込まれ、原発
の本質を直視しない弱さが日本人にはあった。
後にコールサック社から『福島原発難民』や『福
島核災棄民』を刊行した若松丈太郎さんの詩
『神隠しされた街』や私の詩も、当時は狼少
年の遠吠えのように無視された。2012年
8月に私と若松さんが刊行した『脱原発・自
然エネルギー218人詩集』（日本語・英語合
版）にもこの2篇の詩は再録された。また私の
詩は東京新聞にも同年の12月6日に再録され
た。その記事がきっかけでアメリカのオレゴン
州の詩人リア・ステンソンが中心になつて『脱
原発・自然エネルギー218人詩集』から50
篇を選び『福島からの反響音―日本の詩人50
人の発信』が今年の2月下旬に全米で刊行さ
れる。アメリカ版の解説文を私と若松さんは
新たに執筆した。原発を投下し原発を勧めて
日本人を苦しめている福島県の現状をリアさん
たちは全米に伝えたいと考えた。私はアメリ
カ人の良心が原発を開発したマンハッタン計
画の評価を根本的に見直すことが最も重要な
ことだと解説文に記した。特定秘密よりも未
来を予見する表現の自由こそが民主主義の根
幹だ。それが揺らいでいる日本は、とんでも
ない代償をきつと未来に払わされるだろう。
（すずき・ひさお／詩人・批評家・コールサック社
代表）